

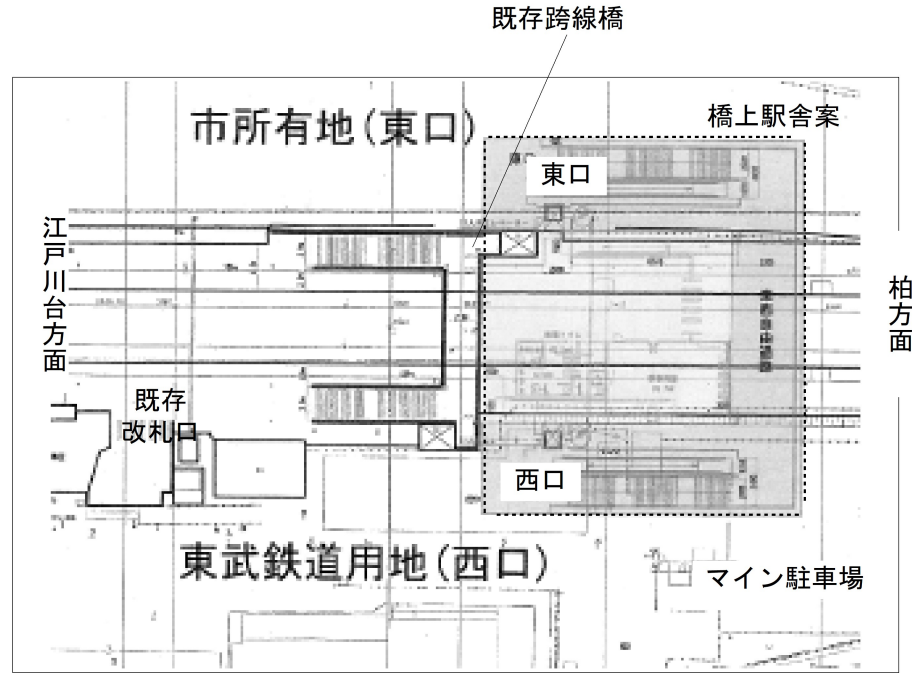
2023年4月開設に向け整備案まとめる



流山市議会議員

小田 桐たかし

R5（2023）年4月開設を逆算すれば、R3・4年度の工事、R2年度の設計完了が必須で、その前提である東武鉄道との書面合意が絶対です。今回、整備案が提案されたことは大きな1歩と評価できます。また、東口も車両流入を抑制できる内容が盛り込まれています。しかし、東武鉄道との協議により、事業費の増加、開設時期の遅延、西口ロータリーの使いにくさが噴出すれば、効果が薄れかねません。行政と地域住民、利用者の一大運動が必要です。ぜひ、一緒に力集めて、誰もが、西側でも東側でも安心して利用できる初石駅にしましょう。



小田桐たかし市議は、今年第3回定例会で、初石駅東口開設に向けて東武鉄道（株）との協議進捗を質してきました。

また19日には、駅舎及び東口の整備案について東武鉄道との協議状況を確認するとともに、東武鉄道に対し、①事業費への経費負担、②既存改札口等の跡地利用、橋上化にともなうメイン駐車場や居酒屋店の営業補償等に対する積極的取組み、③アクセスルートの新規確保や西口ロータリーの再整備など資金面にとどまらず、地権者として様々な協力を求めるよう提起しました。

**東武鉄道と方針案を確認すべき
事業費負担を含め公共交通の役割求めよ**

11月19日の市議会全員協議会で初石駅橋上化及び東口の整備案が報告されましたので、お知らせします。今後、自治会長への説明や住民説明会（来年3月）が予定されています。